

4. 宮城厚生協会における PACS 導入と運用

木村 文正 公益財団法人宮城厚生協会 坂総合病院放射線室

当法人は、宮城県内に4病院11診療所を運営し、各施設がそれぞれの特徴を生かしながら地域での役割を担っている。当法人の拠点病院である坂総合病院（357床）は、2005年11月に、リニューアルオープンと同時にPACS導入も行い、地域の急性期医療の円滑な連携を支えている。今回、坂総合病院でのPACS更新の検討を契機に法人全体でのPACS一括導入を企画し、選定、導入に至ったので報告する。

導入のねらい

2005年に坂総合病院に導入されたPACSのハード面での保守が期限を迎えることから、PACS更新を迫られる状況となった。画像保管容量は、これまでに12TB（可逆圧縮後）となっていたが、途中、CTの多列化（6列→64列）、他施設からの紹介画像の取り込みの増加などを要因として、画像容量増加率は年々上がってきており、そのほかに、将来モダリティが増加した場合への対応も考慮しなければならなかった。そのため、オンプレミスでの更新の場合、ストレージ容量をどのくらい見積もるのか、悩ましい問題であった。

また、これまででも法人内外での読影環境構築を模索・検討していたこと、PACS未整備の病院・診療所への新規導入の際のコスト削減対策、東日本大震災を経験して、事業継続性の観点から災害に強いシステム作りの必要性など、これらの要望を同時に実現可能にするシステム構築をめざすこととなった。特に、初期設備投資における優位性、クラウド

サービスの将来性などを踏まえ、画像データを外部保存するクラウド対応PACSを念頭に置きながら検討していくことにした。

選定の経緯

当法人内に医療情報システム（電子カルテデータ遠隔保存、PACS更新と導入、生理検査システムの施設間共有化）検討プロジェクトが設けられ、それぞれワーキンググループを立ち上げ、取り組むこととなった。その中のPACS検討ワーキンググループ（以下、PACS・WG）で、法人全体での画像連携、保存方法などを検討することとなった。

PACS・WG検討作業については、以下の項目について行った。

1. 協会内の各事業所課題の整理について

- ① 坂総合病院：2013年度内でのサーバ更新対応
- ② 長町病院：震災により一部建屋使用不能となり、2013年度、新病院建設でのPACS導入
- ③ 古川民主病院：PACS整備展開
- ④ 泉病院：放射線科事業整備（協会内読影センター、地域画像連携）
- ⑤ その他：健診センター、診療所群の画像データ保存と医療情報の活用、費用削減

2. PACS・WG提案

- ① 次期システムは、クラウド型（外部データ保存）システムによる設計をめざすこと。
- ② 震災時通信インフラが数日間ストップ

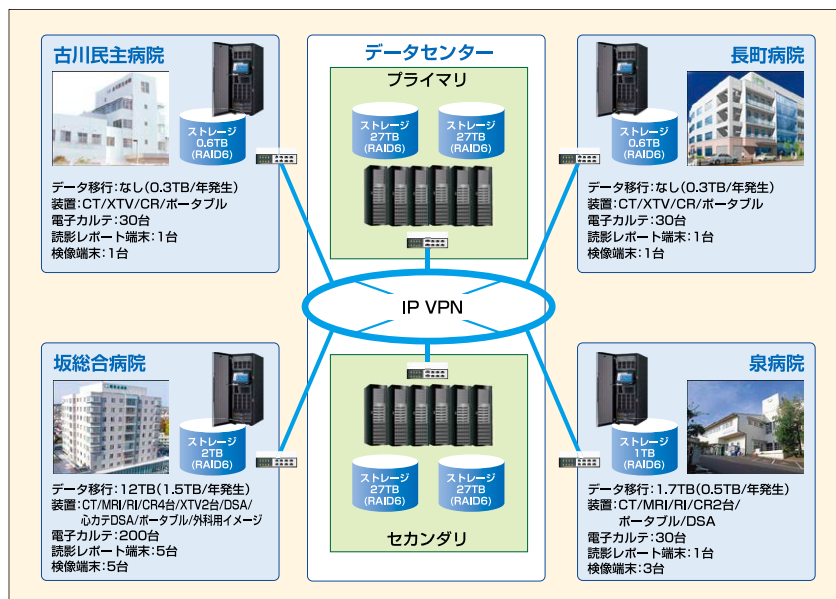


図1 システム概要図 (XTREK F.E.S.T.A)